	<p>発 行 者 山梨県公立小中学校教頭会 山梨県公立小中学校教頭組合 事 務 局 甲府市丸の内三丁目33-7 山梨県教育会館内 TEL 055-226-0980 FAX 055-227-9661 E-mail kyotokai@estate.ocn.ne.jp</p>
---	---

## 「初心を忘れず」

山梨県公立小中学校教頭会 会 長 笹 本 信 仁

第57回山梨県公立小中学校教頭会総会・教頭組合定期総・大会の開催に当たり、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様をはじめ、ご出席いただいた教頭先生方、また、大会運営にご尽力いただいた全ての関係者の皆様に、衷心より御礼を申し上げます。3年ぶりの全会員参加とさせていただきましたが、顔を合わせての総・大会の大切さを改めて感じさせていただきました。

総・大会で確認された今年度の活動方針並びにスローガンを受け、その実現に向けて、一層充実した活動が推進されるよう、会長として責務を果たしていく所存です。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

さて、ふと振り返ってみると、教職という道に就いて30年以上が経っていることに驚きを覚えます。あっという間の歳月でした。今でも初めて受け持たせてもらった子供たちの姿は鮮明によみがえってきます。毎日必死でしたが、楽しい日々でした。子供たちのためにどうしたらよいか、常に考えていたように思います。小学校教諭を数年経験した後、中学校に赴任しました。初めは戸惑いがありましたが、中学校の魅力も分かってきました。いろいろな悩みを抱えている生徒が多く、教師として様々なことを学ばせてもらいました。

子供たちがおかれている環境の変化は加速しています。家庭環境も複雑化し、対応も難しくなっています。先生方は教える内容が増加し、さらに学校に求められることは多くなってきて

います。課題は複雑化し、この解決策は簡単には見つかりません。迷うことも多々あると思います。どうしたらいいか迷ったとき、私はいつもこう考えます。

「子供たちにとって最善の方法は何か？」

そうすると答えがずっと出てることがあります。教壇に立った時の初心を忘れず、子供を中心に据えた教育を今後も進めていきたいと思えます。

働き方改革も推進していかなければなりません。今、学校現場は疲弊しています。「学校運営の要」である私たち教頭の果たすべき役割はさらに大きくなっています。だからこそ、教頭が相互に連帯・協力し、職務を遂行していくことが大切です。267名が一致団結し、「チーム教頭会」として活動に取り組んでいきましょう。



## 「喜びを感じながら」

山梨県公立小中学校教頭会 副会長 佐藤 浩 次

私は、よく休日に、近所のスポーツ公園を散歩しています。様々なスポーツ・イベントや各種大会などが開催される週末は、いつもとても賑やかです。健気にボールを追う子供たちと熱い応援をする保護者の皆さん、競技場を真剣な眼差しで走り続けたり、テントで仲間と笑い転げたりしている中高生、汗びっしょりになって芝生を駆け回る家族など、スポーツをきっかけに充実した時間を過ごす姿であふれます。

しかし、“コロナ”が公園の姿を大きく変えました。当たり前だった活気がプツリと切れたようでした。多くの大会などが中止になったり、縮小してそっと行われていたりしていました。閑散としていました。感染症対策等の工夫をしながら日々練習を積み重ねてきた青春真っ只中の学生さんたちなど、とても歯がゆい日々で、辛かったと思います。

コロナが落ち着きを見せ始め、ようやく公園に、また活気が戻ってきました。むしろコロナ禍前よりも一層笑顔が溢れているように感じるほどです。そんな光景に出会えることで、少しだけ散歩の足も軽く運べる気がします。やはり、人同士が直接関わりながら一緒に活動することで、喜びや笑顔が生まれるのだと実感しています。時にはすれ違いなどがあっても、それを乗り越えたときに、より高まっていくのだと思えるようになりました。

本年度の教頭会の活動を考えたとき、同士が集い、同じ話題で議論を深めたり、問題解決策を考えたりする機会は、とても貴重だと思います。本年度は関ブロ山梨大会に向けての足場固めの年です。これまで以上に、継続的に学校間・教頭間の連携を図り、子供・保護者・地域の方々と積極的に関わりながら、実践的な研究に、力を合わせて取り組んでいきましょう。魅力ある学校づくりのため、私たちは学校の要として、みんなで力量を高めていきましょう。運動などして、健康に気をつけながら。

## 「苦境を打ち破るために」

山梨県公立小中学校教頭会 幹事長 中 島 浩 三

予測不可能な未来社会を自立的に生き、主体的に社会の形成に参画するための資質・能力を子供たちに身に付けさせるために、学校教育における指導の改善・充実が求められています。

世界に目を向けてみると、日本を含め新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアによるウクライナ侵略など、まさに予測し得なかった事態が発生し、人々の生活に大きな影響を及ぼしています。

学校現場に目を向けると、特別な支援を要する児童生徒や外国人児童生徒・不登校児童生徒の増加、児童虐待、ヤングケアラー、貧困など子供たちを取り巻く環境や社会問題の多様化・複雑化等、課題が山積しています。それらの課題に直面し、日々奔走する教職員を取り巻く環境の行く末も不透明感が否めません。

「令和4年度教員勤務実態調査速報値」（文部科学省）によると、教師の時間外勤務の状況は、平成28年度実施の前回調査との比較では、一定程度改善したとされる一方、依然として長時間勤務の教師が多い実態も明らかになりました。加えて全国的に教師不足が指摘され、「憂慮すべき状況」とされています。いずれも本県においても大きな問題となっており、早期の解決を望むところです。

今年度の定期総・大会は、その開催の趣旨に照らし従前の全員参加となりました。私達教頭には、目前にある課題に対し、持てる手段を駆使して改善、解決を図っていく職責があります。しかし、その取組の多くは孤独で、遅々として進まずというのが正直なところではないでしょうか。だからこそ県下267名の全教頭が肩を組んで難局に立ち向かっていくことが求められていると感じています。本県教頭会がこれまでに残してくれた成果を生かし、様々な課題に立ち向かっていけるよう努めていきたいと考えています。ご理解とご協力をお願いします。

## 「教頭としての資質向上を目指して」

法制研究委員長 諏訪啓太

法制研究委員会では、本年度も、「教頭の職務や身分にかかわる法制研究を行う」「法的根拠を明確にしながら、教頭に期待される職責の遂行を究明し、諸要求実現のための要請活動に結びつける」「学校運営に役立つ法制研究を行い、その成果を交流し共通理解を得る中で、資質の向上を図る」ことを基本方針として研究活動を進めていきたいと考えています。働き方改革や部活動の地域移行など、様々な課題を抱える学校現場で、私たち教頭が明確な根拠に基づき、安心して職務にあたるよう、様々な情報提供ができるような活動を目指していきます。

県の法制研修会につきましては、例年は年度当初にアンケート調査を実施し、その結果にかかわる内容について講義していただく形をとっていましたが、本年度は、昨年2学期末に実施したアンケート結果に基づいて、講義いただく内容をお願いしました。半年ほどの勤務経験を経た教頭が抱えた悩みや疑問点を共有することで、より実践に役立つ研修会になるのではないかと期待しています。

教頭としての資質向上に向け、より充実した活動が展開できるよう、本委員会へのご理解、ご協力をお願いいたします。

## 「東山梨支部教頭会の活動」

東山梨支部 会長 山懸重人

東山梨支部は、山梨市・甲州市の21小学校、7中学校の教頭28名で構成されています。本年度は12名の新会員を迎え、活動がスタートしました。

本支部では、年間8回の定例会を行います。全体会では、教育関係者を招いての学習会、小グループに分かれて学校運営に関するテーマについての話し合いをします。全体会終了後は、各市に分かれて課題別研究や職務に関する情報交換を行っています。これらの活動で教頭としての資質向上に努めています。

## 「コロナ禍後における教育活動」

調査活動委員長 仲田邦彦

新型コロナウイルス感染症の類型が5類感染症に位置付けられ、教育活動の在り方についても試行錯誤しながら、さらなる工夫が求められている昨今です。

「行事の精選」「学びの形態の工夫」「ICT活用の推進」等が検討され、新しい教育活動が模索されています。また、教職員の多忙化改善もあり、安易にコロナ禍以前に戻すのではなく、学校運営そのものに改善と進化を求め、働き方改革を推進していくことが大切なのではないでしょうか。

魅力ある教育現場を目指し、様々な判断が要求される学校において、本調査活動によって得られたデータが大きな役割を果たすことは間違いありません。「生活の向上と権利の拡大を図る」「教育条件を改善し、民主主義を推進する」「教育環境の改善と充実を目指す」といった調査活動の意義を改めて考え、改善のための検証を今後も行っていくことが、真の教育活動の実現につながると確信しています。今後も調査活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

教育環境が変化する中、現場は平常に戻りつつあります。難しい状況が続きますが、東山梨教育のさらなる発展のため、より連携を深め、28名で研鑽を積んでいきたいと思えます。



## 「笛吹支部教頭会の活動」

笛吹支部 会長 黒澤 秀夫

笛吹支部は、市内14小学校・5中学校の計19校、会員数22名で構成されています。今年度は新たに13名の新会員を迎え、4月より活動がスタートしました。本支部の活動は、定例の学校運営研究会全体会議の中で協議事項の検討や情報交換を行い、全体研究会（実践交流学習会）で実践レポート研究の発表を行います。その後2部会に分かれて課題別研究に取り組み、研究を深めています。また、教育関係者や先輩管理職を招いての学習会、夏季には法制研レポートを基に法制研修会、教育事務所長・管理主

事を招聘して指導していただくなど、教頭としての資質向上に努めています。今年度は研修旅行も計画し、会員相互の親睦を一層深め、笛吹教育の中核となって活動していきたいと思っております。

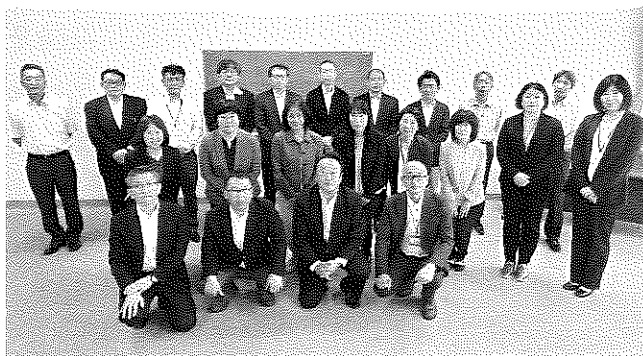


## 「峡南支部教頭会の活動」

峡南支部 会長 望月 基希

峡南支部は、5町からなる南北に長い地域に小学校17校、中学校9校の計26校、会員数27名で活動をしています。今年度は、新会員10名を迎えてのスタートとなりました。本支部では年間6回の定例会を実施し、前半の全体会では、各専門部を含む支部全体の取組に関する協議や検討を行っています。また、様々な教育課題に対しての情報共有や情報交換も行っています。後半は課題別研究を行っています。3つのブロックに分かれて第13期1年目の研究をスタートさせています。第5回の定例会では、

講師として主幹・管理主事を招聘し、講演会と法制学習会を行う予定です。今年度も峡南教育の充実と発展、また峡南地域の子供たちのために有意義な活動を進めていきたいと思っております。



## 「中巨摩支部教頭会の活動」

中巨摩支部 会長 雨宮 博之

中巨摩支部は、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町の4市町の小中学校50校からなる支部です。今年度は23名の新会員を迎え、54名で活動しています。

月例の学校運営研究会を活動の中心とし、活動内容の確認、課題別研究会、情報交換等を行っています。夏季には、管理主事を招聘しての研修会や臨地研修を行いながら見識を深めています。また、法制研修会等も実施し、喫緊の課題解決に向けた研修とともに、一人一人の資質向上に努めています。

さらなる中巨摩教育の発展のため、児童生徒にとって安心安全な、地域と連携した学校づくりを目指し、研鑽しあえるよう活動を行ってきたいと思っております。

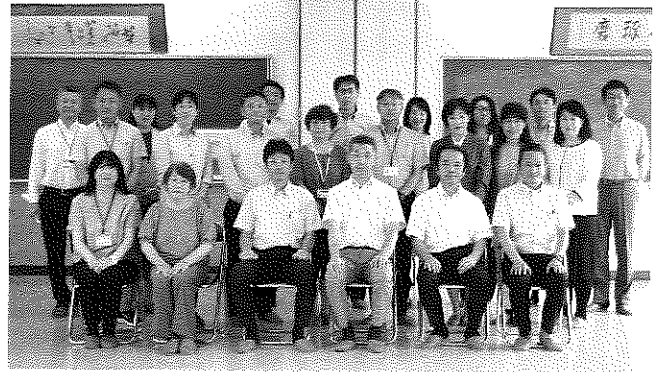


## 「北巨摩支部教頭会の活動」

北巨摩支部 会長 矢崎 武 仁

北巨摩支部の教頭会は韮崎市7校（小5・中2）、北杜市18校（小9・中9）、計25校の教頭26名で構成されています。今年度も多くの力のある新会員を迎え、より一層充実した活動となっています。本会では、定例会を毎月1回実施し、連絡報告、情報交換を行っています。課題別研究では、昨年度と同様3つのグループに分かれ、それぞれのテーマのもと研究を進めています。今年度より新しいテーマを設定し研究を深め、来年度山梨で開催される関東ブロック大会でその研究の中間報告をする予定です。

今年度は、これまで自粛してきた懇談会を再開し、会員相互の親睦をさらに深め、新しい学校のスタイルを構築できるように、教頭としての研鑽を積んでいきたいと思ひます。



## 「南都留支部教頭会の活動」

南都留支部 会長 古屋 和 仁

南都留支部教頭会は、富士吉田市、都留市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、富士河口湖町、鳴沢村、湖南中組合の9つの教育委員会に属する小学校28校、中学校14校、計42校の教頭49名の教頭で構成されています。今年度は、20名の新会員を迎えスタートしました。

定例会では、連絡や情報交換をし、課題別研究会では3つのブロックに分かれて研究を進めています。13期の1年目にあたり、どう研究を進めていくのか検討しています。

今後もさらなる南都留教育の発展のため、教

頭としての資質を高め、子供たちの学びが充実できるように一同研鑽を積んでいきたいと思ひます。



## 「北都留支部教頭会の活動」

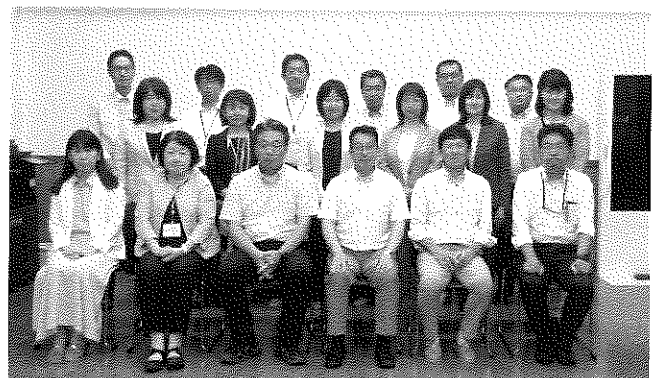
北都留支部 会長 天野 時 夫

北都留支部教頭会は、大月市、上野原市、小菅村、丹波山村の小中学校18校、19名で構成されています。今年度は新たに4名の新会員を迎えて活動をスタートさせました。

本支部では、年5回の全体研究会と3つのブロックに分かれての支会別研究会を9～10回実施し、実践研究の報告、連絡、情報交換を行っています。全体研究会では、4月に教育事務所副所長から「今日的な教育課題と教頭の役割」と題してご指導をいただきました。また、10月には指導主事をお招きしての法制研究会を企

画し研鑽を積みたいと考えています。

北都留の子供たち、そして地域の教育力向上のために、教頭としての資質・能力を高めていけるよう活動していきたいと思ひます。



## 「甲府支部教頭会の活動」

甲府支部 会 長 弦 間 文

甲府支部教頭会は、小学校25校、中学校11校、計36校の教頭42名で構成されています。今年度も新会員を迎え、活動がスタートしました。

本支部では、年9回の定例会を実施し、情報交換をしたり、課題について考えを出し合ったりしています。課題別研究会では、昨年度の成果を受け新たな課題を設定して研究を始めているところです。

アフターコロナとなり、どのように行事を元に戻していくかは各校とも悩ましいところです。

今何ができるのか、何を大切にしながら残し、精選すべきことは何なのかという視点で、教頭会が一致団結して、甲府市の教育の更なる充実を目指し、研鑽を重ねていきたいと思っています。



## 退会者のことば

### 「充実した日々」

東山梨支部 武 井 麻 子

「僕はこの仕事が好きなんだよ。」

ある先輩の教頭先生のこの言葉が、今の私自身の思いに重なります。

教頭の職務は多岐に渡り、業務に追われる毎日ではありましたが、私にとっては、楽しく充実した日々でした。

「チーム学校」として結束した職場の先生方や子供ファーストで尽力いただいた地域や保護者、教育委員会の方々、互いに学び高め合えた教頭会の先生方など、多くの方々と共に学校作りを担う大変やりがいのある素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝しています。

ご多忙なおかれましても、教頭先生方なりの楽しみを見つけながら、学校の要としてこれからもご活躍下さい。澁刺と職務に取り組むその姿が学校の活性化につながると思います。

末筆ながら、会員皆様方のご健勝と教頭会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

### 「コロナとの格闘」

甲府支部 齊 藤 宗 市

5月8日より5類に移行した新型コロナウイルス感染症。思い起こせば、令和2年2月27日、安倍晋三首相（当時）の突然の要請で始まった全国一斉休校。その後は、最長で約3か月に及んだ休校や分散登校、3密回避やソーシャルディスタンス、毎朝の体温チェックや手指消毒など。この3年間、学校現場は、新型コロナウイルスとの格闘の日々であり、その中心で行動していたのが、教頭先生方だと思います。大変な状況下でしたが、教員の働き方改革の側面からは、学校での教育活動やPTA活動を見直す良い機会となりました。ようやく終わりが見え始めましたが、アフターコロナでの様々な対応で頭を悩ますことも多いと思います。教頭職は激務であると昔から言われていますが、今後も起こりうる様々な課題に、健康を留意しつつご活躍ください。最後になりましたが、山梨県教頭会のご発展をお祈り申し上げます。

## 新会員のことは

## 「新教頭として」

笛吹市立浅川中学校 窪 田 真 二

新教頭として現任校に赴任して2か月が過ぎようとしています。その間いったい何をしてきたのでしょうか。引継ぎで聞いた膨大な量の仕事の意味も分からず、目の前にある文書の処理や様々な対応に追われ過ぎ去っていった日々。生徒の顔を覚えることもなく、仕事をやり終えたという達成感も感じられないまま今日に至っているのが実情です。

ただ不思議なもので、最初のころ「教頭先生」と言われても反応できませんでしたが、最近では自分のことだと思えるようになりました。それはこなしてきた仕事の積み重ねと、学校を運営しなければいけないという覚悟が、だんだんと芽生えてきたからなのだと思います。生徒からの距離が少し遠くなったことは寂しいですが「職員室の担任」という思いで今後も精進していきます。

## 「新たな場所で」

丹波山村立丹波小学校 芹 川 由 美

感傷に浸る余裕はなくスタートした小学校という世界。「中学校と小学校では文化が違うよ。」と言われましたが、毎日が新鮮で、驚きと学びの連続に、楽しい日々を過ごしています。ただ一つ、名前ではなく「教頭先生」と呼ばれ少し寂しくも感じます。また、何がわからないかわからないという「勉強がわからない子の気持ち」も改めて気づけました。

学校は小さいですが、それなりに課題はあります。しかし、校長が「これは必然なんだよ」と言います。子供たちとの出会い、保護者や地域との出会い、今ある課題、そして、職員との出会い。子供たちのために校長の指導を仰ぎ、教職員と共に一つ一つ乗り越えていきたいです。

## 「教頭としての日々に思うこと」

南アルプス市白根源小学校 相 川 也 寸 志

教頭として古巣である現在の学校に赴任して2か月が経ちました。教頭職としてのこれまでの仕事を振り返ると、教務主任の時代とほぼ同じスタンスで取り組める仕事もあれば、今までにない新たな視点で取り組まなければならない仕事もありました。その中で、何よりも強く感じたのは仕事量の多さです。一つ一つの仕事の量が多いというのではなく、仕事の数が多いことに驚きました。そのためタスク管理能力の大切さをひしひしと感じています。しかもそれは自分の苦手としている分野。頑張らねば、です。仕事に疲れると、職員室の席を離れて子供たちと触れ合うのが、最近のささやかな楽しみです。

## 「初心を忘れずに」

甲府市立朝日小学校 廣 瀬 剛

教頭として赴任し、2か月が過ぎようとしています。この2か月は、想像以上に忙しく、膨大な提出書類や職務に追われる毎日でした。

教頭として勤務するにあたり、校長の補佐としての役割を果たすことや人材育成に積極的に取り組むこと、地域と学校とのパイプ役となることなど多くのことを考えていました。しかし、実際は校長先生や先生方などに助けてもらうことが多く、理想とする教頭像にはまだまだであると感じています。

節目の行事を終え、新しい職に対するリズムも整い始め、少しずつですが、周りを見ることができるようになってきました。今後は、教頭を志願した際の初心を忘れずに職務遂行のために自分らしく頑張っていきたいと思います。

## 「情宣活動を通して」

情宣活動委員長 山 口 正

「山梨教頭第144号の発行」と聞くと、これまでの諸先輩の教頭先生方のたくさんの考えや願い・実践等が伝わってきます。今回、その長い歴史のある「山梨教頭」を作成する立場として関わることができたことは、たいへん身が引き締まる思いです。それと同時に今後の情宣活動をどのようなものにしていくのか悩みました。

情宣とは情報宣伝活動の略語であり、会員が仲間との情報共有などを目的に活動方針や活動内容を発信する広報活動のことです。

堅苦しい話になってしまいましたが、この「山梨教頭」で、「職場の担任」としての教頭先生方の思いや気持ち、着任当初の何もわからない不安や悩みからやりがいに変った経験、教え子や職場の仲間に使われた思い出等、そんなたくさんの思いを集めて発信していきたいと思っています。みなさんに互いの情報を共有しながら読んでいただきたいと思っています。今年度は2回の「山梨教頭」を発行します。145号の作成にもご協力よろしくお願いします。

## ◆令和5年度 教頭会行事予定◆

5月10日	第57回県公立小中学校教頭会総・大会
8月3日	第65回全国公立学校教頭会研究大会
～4日	石川大会(参集とオンライン併用)
8月8日	第2回管理職研修 副校長・教頭研修会 (法制研修)
10月18日	第57次県教頭会教育研究集会
11月16日	第64回関東甲信越地区公立学校 教頭会研究大会東京大会
～17日	

## ●令和5年度情宣活動委員会名簿●

委員長	山口 正	笛 吹	一宮南小
副委員長	鳶木 宏之	北 都 留	七 保 小
副委員長	山田 茂之	甲 府	大 国 小
委 員	藤波 貴	東 山 梨	大 和 小
委 員	池川 穂波	峡 南	六 郷 小
委 員	内藤 成子	中 巨 摩	竜 王 東 小
委 員	古屋 昌信	北 巨 摩	高 根 中
委 員	小俣 善美	南 都 留	吉 田 小
委 員	小俣 里香	本 部	秋 山 中
事務局長	小林 千澄	事 務 局	県教育会館

## 編集後記

この3年間、校内での時間と労力の多くが感染症対応に奪われました。一方で「できないからやらない」ではなく「どうしたらできるか」を考え、創意工夫して取り組んだことは大きな財産になりました。学校の在り方から教育課程編成、行事の意義や目的を問い直す良い機会を得られたと前向きに捉えたいと思います。多くがコロナ以前と同様になりつつある今、コロナ禍で得た知見を基に新しい学校運営が今年求められると思います。教頭会で力を合わせ取り組んでいきたいと考えます。

今号の発行にあたり多忙な時期にも関わらず多くの先生方にご協力をいただき感謝申し上げますとともに、引き続き「山梨教頭」へのご協力をお願いいたします。

(大月市立七保小学校 鳶木 宏之)